

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ブレイク・ダウン	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.570	△RG	0.030	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：ブレイク・ダウン

フレアーの幅 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離 インチ

5

番

研磨剤

比較対照ボール：オール・デイ

フレアーの幅 インチ

表面加工

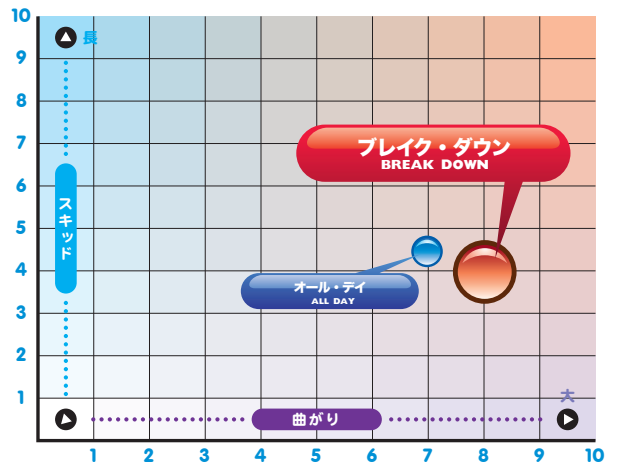
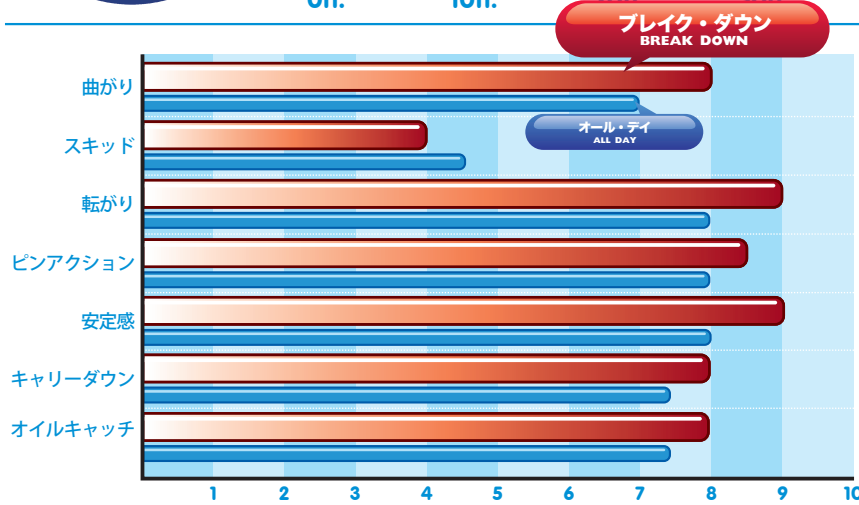
- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離 インチ

5

番

研磨剤



レーンコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レングス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

ボールの評価

900Global社は生産拠点多くなり、パフォーマンスのカテゴリーが多く持てるようになったこと。やはりカバーストックの恩恵はパフォーマンスを著しく変化させ、今や2代メーカーに迫る勢いになったと言っても過言ではありません。

現に専属契約をしたChris Barnesの契約直後の成績は文句のつけようはないでしょう。今回ご紹介するBREAK DOWNは、前身でもある900Global社でもっとpopularであったBreak Asymmetric Coreとファンが多かったS70 CoverStockのSolidバージョンとの組み合わせで作られています。私は以前から900Global社のBreakコアは知っていましたが、非常に転がり感がよく、カバーストックの形態で様々なパフォーマンスを出せる万能性の高いコアという認識があります。そのコアテクノロジーに今回あえてS70 Solid CoverStockを選んだということは、やや手前からキャッチを出しながら転がり感重視でコントロールしやすいボールに仕上げたかったという開発コンセプトが読み取れます。私がテストした印象もそのまま、リアクションはContinuous系に属します。私は非常にこのボールは気に入っていますが、その理由は”動き始めから終わりまでの動きが読みやすい”ことです。このボールはオイルの濃い薄いに過剰反応しませんし、ドライゾーンでの過激な反応がほかのボールに比べ少なく、全体的にマイルドに動こうとするので、ボールが動き過ぎて必要以上に幅を取らなければならなくなった時にこの手のボールは重宝します。Solidカバーストックの性質をうまく使いながらキャッチはいかしながら転がり感でコントロールさせようとする作りは玄人好みと言えますし、特にトーナメントボウラーには必要ではないかと思えます。

特記事項

定評のあるBreakコアとS70 Solid CoverStockとの組み合わせは、持続性のある転がり感と過剰反応しないリアクションです。コントロール重視で派手さより実を取る方はこのボールは見逃せません。